

# 唐丹文芸

## 「やちぐや」詠草

### 唐丹短歌会

○ 参るさの散り敷く椿ふみ分けて彼岸会の春暖ぬくとき坂道  
 ○ 永遠に眠るやがての吾も並べみる三基の墓所とむらう彼岸  
 ○ 夕には蟹など食さん久しくて家族の形かこむ食卓

須貝美佐子

○ 仏前に供いて合わす双の手はこすれば音する程に老いけり  
 ○ 今更にわが終の日は恐れねど孫達の道ただに案ずる

大津秀子

○ わが干支に又巡り合うとまどいも迷いも滋養はんすうと反芻はんすうをなし  
 ○ ゆったりが似合いの牛をわが生に重ねて行かん風光る野を

上野ウタ子

○ 泣く風にほの朱あけに見ゆ睦月梅なれ雲纏なれふて夕日恋ふよに  
 ○ 食べも得ぬゴミ箱で鳴くカラス二羽凍いて声あわれ追ふも寂しく

中嶋多喜子

○ やれ三とせ晴れ着の袖や赤いくつ祖父母揃いの産土に詣う  
 ○ 海照りのまぶいき庭の雪浄土ユリ華芽吹きて寒タラの漁

磯崎 彬

○ 足腰の弱くなりたる母の為杖作る息子の真剣な顔  
 ○ 三日毎デイサーピスで逢ふ友は心許して家中の話題  
 ○ ハーモニカ吹きて唱はず師の優し なつかしき歌掘りおこしつ

環 あき

○ 誰れも居ぬ大きな家にポツネンと住むわれとなりひと年過ぎぬ  
 ○ 離れ住む子を頼りつつ老の手に酒店管理者許可証受ける

高橋昌子

## 梅花講員の募集

私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、正しい信仰に生きます。  
 私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、仲よい生活をいたします。  
 私たちは曹洞宗梅花流詠讃歌を通して、明るい世の中をつくりま

梅花講の日時

毎月17日 午後1時 盛岩寺本堂にて  
 第4日曜日 午後1時 盛岩寺本堂にて

お申し込みは下記へ連絡下さい

55-3286番 (日野テル子) 55-2174番 (盛岩寺)